2023年度　インドネシア地域交流プログラム

■研修期間　2024年2月16日(金)～3月8日(金)

■派遣学生数　3名

■研修費用　参加費　約300，000円

■単位認定　3単位

■研修日程

	日時	内容	滞在先
1	2/16 日(金)	福岡空港→仁川空港→ジャカルタ空港	ホテル泊
2	17日(土)	ジャカルタ空港→スマラン空港 ボランティア団体と合流	
3	18日(日)	ボランティア団体で語学研修、歓迎会	
4-9	19-24 日(月-土)	ディポネゴロ大学にて日本語学科の学生と交流、文化体験	
10	25日(日)	小旅行　ボロブドゥール遺跡	
11	26日(月)	それぞれのボランティア地へ移動	ホームステイ先
12-19	27-3/5 日(火-火)	幼稚園や小学校でボランティア活動	
20	6日(水)	ボランティア団体へ戻り、振り返り、送別会	ホテル泊
21-22	7-8 日(木－金)	午前　自由時間 午後　スマラン空港→ジャカルタ空港→仁川空港→福岡空港	機内泊

プログラム参加レポート

プログラム名	2023年度 インドネシア地域交流プログラム

1	どのようなことを活動しましたか。 最初の一週間は、現地大学の日本語学科の学生やイスラム女学校の学生と過ごしました。 その中で日本とインドネシアの学校の違いのディスカッションをしたり、インドネシアの伝統的なダンスを踊ったり、伝統衣装を着たり、博物館に行きました。 その後は、世界遺産であるボルブドゥール寺院に行きました。とても迫力があり、世界遺産を見たのは初めてだったのでとてもいい機会になりました。 それから最終日まではホストファミリーのうちで過ごしながら、日中は幼稚園や小学校でボランティア活動をし、日本の遊びや日本の料理を教え一緒に楽しみました。さらに、先生たちとトラディショナルマーケット等、様々なところに行きました。
2	活動を通して何を学びましたか。 ・日本文化を紹介する際に刺激的で人を引き付ける企画をしなければ、面白さを感じてもらえないということです。それに対してどう解決したらよいのか考えさせられることがありました。 ・臨機応変な対応能力と柔軟な考えを持つことの大切さに気付きました。 ・国際的なコミュニケーションにおいて大切なことは、英語力を上げることよりもユーモアや人柄ではないかいうことです。 ・外国人に日本のこと（有名な場所、 食べ物など）についてすぐ答えられるようすること、積極的に母国について語ることは大切だということを現地の出会った人から学びました。
3	活動を通して困難だったことは何ですか。 ・違う国籍の人と話すときに、相手の文化を尊重しつつ、 自分の意見もはっきり言う、そしてコミュニケーションをとることで互いに信頼関係が築けるということを理屈では理解できていたのですが、実践して行うことがとても難しかったです。 ・インドネシアの主要交通手段がバイクであったため、始めは抵抗があり不安でしたが、乗るにつれてとても楽しくなりました。